8月定例記者会見 質疑応答

▽日時:令和6年8月29日 午前10時から

▽会場:稲敷市役所 4階全員協議会室

▽参加記者:茨城放送、茨城新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞 5社

▽参加者(市):市長、副市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、教育部長、危機管理監、土木管理部長、地域振興部長、保健福祉部長、総務課長、企画財政課長、秘書政策課長、生涯学習課長、まちづくり推進課長、総務課長補佐、企業誘致推進室長、企業誘致推進室係長

■資料 別紙のとおり

■市長あいさつ

改めまして、こんにちは。記者の皆様にはお忙しいところ、お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本市の情報発信等にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

先週24日、約1万発の花火が稲敷の夜空を染めた2024いなしき夏まつり花火大会が開催され、市内外から多くの方々に足をお運びいただきました。会場内の熱気溢れるステージイベント、稲敷の味覚などが堪能できる模擬店などの賑わい、そして、色とりどりに個々の美しさを放って打ちあがる花火は、来場された方々に稲敷市での楽しい夏の思い出として、本市の魅力を十分に感じていただけたものと思っております。

花火大会とともに夏も終わり、これから、本格的に文化祭など秋のイベントシーズンが到来いたします。お配りさせていただきました歴史民俗資料館 開館30周年記念企画展につきましては、多くの報道機関の皆様に取り上げていただき、誠に感謝申し上げます。当該企画展は、9月21日までの開催となりますが、他にも記念事業として、別チラシの「中世リレー講演会」についても開催されますので、引き続きご協力をお願いいたします。

また、来年3月22日に、市制施行20周年を迎えます本市では、市民の皆様を含めた多くの方々に広くお知らせし、ともにお祝いしていただくため、庁内各課、そして小中学校のご協力をいただきながら、様々な事業を検討しているところでございます。詳細が決定したものを随時お知らせしてまいりますので、市制施行20周年を盛り上げるため、さらなる報道機関の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

さて、令和6年第3回定例会では、財産の処分に関する議案を提出させていただいております。これは、公益財団法人茨城県開発公社を処分の相手方に、稲敷工業団地用地として、市有地を処分するにあたり、議会の議決を求めるものでございます。これをもって、現在稲敷工業団地において分譲している土地は、完売となる見込みであります。来月、調印式を執り行い、進出企業を皆様にご報告する運びとなりますので、よろしくお願い申し上げます。今後も、産業振興がさらに進展し、本市が活性化するよう市内企業のフォローアップとともに、引き続き優良な企業の誘致に取り組んでまいります。

では、これから、9月3日開会予定であります、令和6年第3回定例会の提出議案等につきまして、ご説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■質疑応答

【令和6年第3回稲敷市議会定例会 報告第6号について】

Q:(株)いなしきエナジーは第2期事業報告書では約108万円の赤字だが、第3期事業計画書では1841万円の黒字を見込んでいる。今後どういった計画で利益を上げていく予定か。

A:昨年度(第2期)の赤字の理由は、売電事業の開始が12月1日にずれ込んだために、それまでの経費で赤字となっている。売電を開始したため、第3期は黒字を見込んでいる。

Q:今後黒字化した場合、利益はどう地域に還元していく予定か。

A:まだ計画段階だが、公共施設等へ太陽光パネルの設置を行い、自主電源の開発につなげたい。その上でさらに利益が出れば、避難所となる公共施設へ蓄電池の設置等も検討していきたい。

【令和6年第3回稲敷市議会定例会 議案第77号について】

Q:消防団員の定数削減の理由について教えてほしい。

A:令和4年度に条例上の定数と、実団員数の乖離を解消するために定数削減の改正を行った。今回も同じ目的で改正を行う。現在の実団員数は938名。

Q:消防団員が市内で活躍した実績と、定数削減による消防団活動への影響について聞きたい。

A:稲敷市は消防水利が遠い場合が多いため、常備消防(消防署)の消火活動へ水利の供給等で活躍している。また昨年度の台風時には、冠水地区の排水活動で活躍した。稲敷市は周辺自治体と比較して消防団員が多かったため、今のところ消防団活動に支障をきたしていないが、分団によっては実動隊員数が減少している。そういった状況で、今後分団・消防車両の数が多くても実動隊員が足りず消防活動に支障をきたす可能性があるため、分団の合併・統合を進めていく必要がある状況になりつつある。

【令和6年第3回稲敷市議会定例会 議案第80号について】

Q:一般会計補正予算(第3号)の「企業立地促進及び創業支援基金費」の積立金について、決算時や余剰金がでたタイミングではなく、今回補正予算で積み立てた理由は。

A:本基金は、企業の用地取得費等を補助する基金であり、その原資については工業団地の売買で得た収入を充てるのが第1との考えから、稲敷工業団地の財産処分で得た歳入を充てることとした。今後も企業誘致関連の収入があった場合には、優先的にこの基金の使い道を検討し、使うことがあれば基金を積み増していく。

【職員用名札の変更について】

Q:全国的に名札の氏名記載を変更する流れだが、稲敷市で具体的なカスタマーハラスメントの事

例や、変更のきっかけとなるような事案があったのか。

A:具体的な事例はないが、職員を対象に名札への氏名記載についてアンケートを実施した結果、現状の名札に不安を感じている職員が多かったため、記載を変更する事とした。